

野田・九条通信

2006年・8月号
NO. 9
「野田・九条の会」事務局
TEL 7122-0502

七月例会会の報告

8月15日から「じっくり考えよう平和への一週間」 戦争・原爆などの写真パネル展と講演会を開催

お知らせ

7月例会は、予定どおり第2土曜日の8日に開催され、6月に結成されたばかりの「野田市職員・九条の会」の代表も、初めて参加して行なわれました。

例会では、①8月15日の終戦記念日に合わせた取り組み。②「九条の会」事務局長・小森陽一氏を招いての講演会を開催。

③有権者の過半数を目標にした「憲法九条を守り、平和のために生かすことを求める署名」運動の促進などについて話し合われました。

終戦記念日に合わせ
パネル展と講演会

今年の終戦記念日は、

キャンプ座間に米軍司令部創設など、在日米軍の再編成が計画され、国会では教育基本法や改憲手続き法案が審議されるなど、平和憲法を変えようとする動きが急速に強まるなかで迎えます。このような時だからこ

そ、戦争と平和の問題をじっくり考えてみよう」と企画しました。

題して「じっくり考えよう平和への一週間」
戦争・原爆の写真パネル展
場所：樺のホール3階
日時：8月15日～20日
入場料は無料です。

◎憲法が危ない：講演会
場所：北部公民館講堂

日時：8月19日14時
資料代300円です。

小森陽一氏の講演会
10月15日で準備

小森氏は、超多忙な方であり、講演会の日程だけ先に決めました。10月15日です。詳細は決まりしだいお知らせします。

「九条を守ろう」の署名
6万人を目標に推進

アピール賛同者に協力を求め、有権者の過半数を集める多様な署名運動を推進します。当面は毎月9日・19日の2日間、街頭や駅頭での署名運動を進めることにしました。ご協力をお願いします。

九条への想い 伊藤 進(野田市職員・九条の会代表委員) 一枚の写真から戦争を考える



私にとって、戦争という言葉から何が思い浮かぶかというと、終戦間ぎわに父が兵隊服姿で、兄を抱いて撮った一枚の写真です。

父の話では、佐原の訓練場に連れて行かれる直前に撮ったものだと言う。父の年齢は四十近くで、もう少し長引けば戦争に連れて行かれた。そうなのと「私も生まれていなかったかも」とよく言っていたことを思い出す。

どんな気持ちで写真を撮ったのか。私もすでに当時の父の年齢を超えてしまったが、生きて帰れないかも知れないから、記念に撮ったということが、痛いほど分かる気がする。

イラクへの自衛隊派遣で、涙を流して見送る家族がテレビに映った。テレビ局のコメンテーターが「戦争に行くんじゃないのになぜ泣いているのか」と言っていた。何も

分かっているないと声を大に叫びたい。
憲法九条が改悪され自衛軍が米軍と一緒に戦争する時代を許さないために、涙を流す家族を再びつぐらないうために。

世界の宝でもある憲法九条を守る綱引きに、一人でも多く加わっていただき、平和な地球を次の世代に引き継ぎたいと思う。

◎署名運動への参加を
場所：愛宕駅前にて
日時：8月9日16時から
誰でも参加できます。

◎募金協力をお願い
マスコミが、「九条の会」の運動を全く報道しません。「平和憲法を守ろう」の声、時期をみて再度「意見広告チラシ」の形で出したいと考えています。一回で約40万円程度の費用を必要とします。現在でも署名運動や「九条通信」の発行に資金が使われています。賛同者の皆さんには、再度の募金をお願いします。

◎8月の「例会」開催
場所：中央公民館講座室
日時：8月5日10時から
8月の取組みや署名運動を更に具体化します。